



防衛省東北防衛局広報紙

東北のかなめ

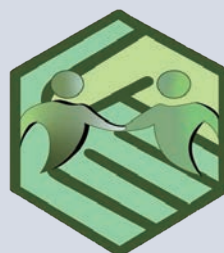
vol.65 (2024.6)



写真提供: 青森県十和田市
世界流鏑馬選手権

【CONTENTS】

- ✓ 日米交流 ひな祭り in TOHOKU Town 2024
- ✓ トピックス
 - ・第44回防衛セミナー in 多賀城
 - ・創立記念行事などでの政策広報
 - ・応急危険度判定訓練
 - ・新規採用職員研修
 - ・ハラスメント防止教育
- ✓ インフォメーション
- ✓ ようこそわが街へ（第35回）～青森県十和田市～
- ✓ 防衛関連企業シリーズ⑱：株式会社重松製作所船引事業所



日米交流 ひな祭り in TOHOKU Town 2024



令和6年3月2日、青森県東北町において、「日米交流 ひな祭り in TOHOKU Town 2024」を開催し、米軍三沢基地（青森県三沢市）と東北町の小学生の親子約50名が参加しました。

このイベントは、日米の参加者が日本の伝統行事を通して交流し、相互理解を深めることを目的に、東北防衛局が企画しました。



会場には7段のひな飾りや着物が展示され、自分の名前や好きなものを記入したカードを交換する「自己紹介ゲーム」から、交流が始まりました。日米の参加者は、ボトルランプ作り、琴の演奏、着物の着付け、餅つきなどを楽しみ、交流を深めました。



第44回防衛セミナー in多賀城

3月8日、多賀城市文化センター（宮城県多賀城市）において、第44回防衛セミナーを開催しました。

セミナーでは、防衛省整備計画局防衛計画課の中野憲幸課長が「新たな国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画」と、陸上自衛隊多賀城駐屯地司令の中本能久1等陸佐が「多賀城駐屯地と地域との関わり」と題して講演を行いました。

約80名の方にご来場いただき、「あまり知ることのない日本の防衛の実態について知ることができた。平和についての国民の意識の底上げが必要ではないかと感じた。」などの感想が寄せられました。



中野防衛計画課長

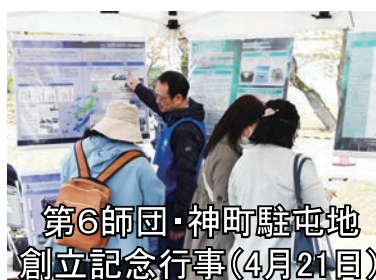


中本多賀城駐屯地司令

創立記念行事などでの政策広報

東北防衛局は、防衛省の政策や自衛隊の活動などについて、地域の方々のご理解をいただくため、自衛隊の創立記念行事などで、広報ブースを開設しています。

第6師団・神町駐屯地創立記念行事（山形県東根市）では、防衛白書のパネル展示とクイズ形式の問題を用意し、全問正解者にオリジナル缶バッチをプレゼントしました。



第6師団・神町駐屯地
創立記念行事(4月21日)



はたらく車・がんばる車
大集合(5月5日。山形市)

応急危険度判定訓練

2月9日、仙台駐屯地（宮城県仙台市）において、東北防衛局の調達部職員による応急危険度判定訓練を実施しました。震度6強の地震により、仙台駐屯地において、建物の損傷、屋外給汽菅の蒸気漏れなどが発生したとの想定で訓練を実施し、対応能力を養いました。



外壁クラック調査



屋外給汽菅
蒸気漏れ・倒れ調査



舗装沈下状況調査

応急危険度判定：地震等により被害を受けた建築物などについて、二次災害を防止するため、余震等による倒壊の危険性や外壁等の落下などの危険性を応急的に判定すること。

新規採用職員研修

この春、東北防衛局は、10名の新規採用者を迎え、5日間(4月16日～19日、4月24日)の新規採用者研修を行いました。

研修では、コンプライアンスやマナー講座、我が国の防衛政策、当局の各部(総務部・企画部・調達部)の業務など様々な分野について、当局の職員による講義や防衛本省によるオンライン講義を行いました。また、研修最終日には、三沢基地において現地研修を行い、航空自衛隊と米空軍の部隊や施設などについて、学習しました。



空自三沢基地による
概況説明



米空軍三沢基地による
概況説明



三沢基地での集合写真

ハラスメント防止教育

部外カウンセラーを講師に招き、東北防衛局の幹部職員(3月7日)とハラスメント相談員(3月11日)を対象とするハラスメント防止教育を実施しました。

教育では、座学のほか、幹部職員は自己を理解し、円滑なコミュニケーションに活かすためのグループワークを、ハラスメント相談員は相談を受けたときの対応のロールプレイを実施し、ハラスメントに関する理解を深めました。



ハラスメント相談員の教育

インフォメーション

～在日米軍基地で働きませんか～

エルモでは、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。下記の支部にお問い合わせください。

求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますので御利用下さい。

【X(旧Twitter)】

求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。
ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名

「在日米軍従業員求人情報(エルモ) @LMO recruit」



エルモホーム ページ



求人情報 本州・九州の基地



【窓口応募受付・お問い合わせ先】エルモ三沢支部 管理課管理係

電話：0176-53-4165 住所：青森県三沢市平畑1-1-25

(担当施設：三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所)

LMO

検索

<https://www.lmo.go.jp>

新幹部紹介

防衛補佐官 1等陸佐 石井 光洋(いしい みつひろ) (3月21日付)

【前職:陸上自衛隊関西補給処装備計画部計画課長】

地方防衛局での勤務は初めてになりますが、微力ながら自衛隊と関係自治体等の架け橋となれるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



企画部次長 榮森 賢(えいもり まさる)

(4月1日付)

【前職:地方協力局東日本協力課企画調整官(併)西日本協力課付】

約5年ぶりの東北防衛局勤務になります。地元の自然、歴史、文化などを学びつつ力を尽くしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。



調達部次長 岡本 正樹(おかもと まさき)

(4月1日付)

【前職:調達部調達計画課長】

引き続き、管内の自衛隊・在日米軍施設の円滑な整備に向けて、専心してまいりますので、よろしくお願いいたします。



三沢防衛事務所長 嶋崎 貴規(しまざき たかのり)

(4月1日付)

【前職:北海道防衛局企画部周辺環境整備課長】

三沢防衛事務所での勤務は初めてとなりますが、地域の皆様とのつながりを大切にし、信頼関係を築けるよう努力してまいります。



ドローンの規制についてのお知らせ

小型無人機等飛行禁止法により指定されている**自衛隊施設/米軍施設**その**周辺地域**(周囲約300m)の上空における**ドローン**等の飛行は、**原則として禁止**されています。

これに違反した場合、次のような措置/罰則もあります。

- 警察官等による安全確保措置
- 最大懲役1年/罰金50万円

対象防衛関係施設および飛行をさせたい場合の手続きの詳細については、防衛省HPをご参照ください。



〇お問い合わせ先:東北防衛局 地方調整課 022-297-8212

三沢防衛事務所 0176-53-3118

E-mail: drone-th@tohoku.rdb.mod.go.jp(共通)

周辺財産の個人・企業等に対する有償使用許可のご案内

三沢・八戸・松島の各飛行場周辺、三沢対地射爆撃場周辺及び王城寺原演習場周辺に「周辺財産」(移転補償跡地)と呼ばれる国有地があります。

土地の有効活用を図る観点から、周辺財産(移転補償跡地)の行政目的を妨げない範囲で、**個人、企業等に対しても、一定の条件の下、有償での使用許可を行うことと**しています。

〇お問い合わせ先

東北防衛局 施設管理課緑化対策係
電話:022-297-8213

〇こちらから関連ページへアクセスできます





駒の里 十和田市



【流鏝馬 (やぶさめ)】

馬上からの的へ向けて矢を放つ流鏝馬。古来より続く武芸に現代の要素を加え、乗馬の新しいスタイルとして流鏝馬競技が楽しまれています。その技を競うのが、毎年4月に開催される「桜流鏝馬」と10月の「世界流鏝馬選手権」です。

「桜流鏝馬」は、和式馬術に憧れ、競技として流鏝馬を愛好する女性が集まり、試技を披露する日本で唯一の大会です。桜並木の下で、華やかな衣装を纏って、馬を駆る女性騎手たちの弓さばきは必見です。珠玉の和式馬術を和種馬で演じるという醍醐味にもご注目ください。

「世界流鏝馬選手権」は、世界トップレベルの選手が国内外から集まり、日頃の鍛錬の成果を競います。走路を十数秒で駆け抜ける勇壮な騎射の供覧となり、盛り上がりを見せています。

【新紙幣発行記念事業】

十和田市では、市にゆかりのある渋沢栄一氏及び北里柴三郎氏が肖像画となる新紙幣が発行されることを記念し、令和6年7月6、7日に、「円(まる)っとフェス」を開催します。

官庁街通りを歩行者天国とし、歩道にはとわだ自慢市を行うほか、舞台イベントやフリーマーケット、商店街の売出等を行いますので、ぜひ十和田市へお越しください。

【道の駅奥入瀬】

美しい景観が楽しめる広大なエリアに、今年中・大型犬専用ドッグランが整備されました。芝生広場、親水公園などがあり自然を満喫できるほか、クラフトビールが楽しめるレストランや地元で生産された生乳を使用した乳製品を味わえるなど、子供から大人まで楽しめる場所です。



【奥入瀬溪流氷瀑ツアー】

白銀の奥入瀬溪流をネイチャーガイドと巡るバスツアーです。溪流の随所に、滝や崖を伝う水が極寒で凍り付き、大迫力の氷瀑や氷柱となります。日中は水墨画のような絶景を、夜はライトアップした氷瀑や溪流景観をいくつかのスポットで、鑑賞できます。



株式会社重松製作所は、大正6年(1917年)の創業以来、防じん・防毒マスク等の呼吸用保護具を中心に、個人用保護具を製造しています。自衛隊では、空気マスク(ボンベから空気を供給する給気式の呼吸用保護具)などを利用しています。

今回は、同社の主力工場である船引事業所(福島県田村市)の増岡正富事業所長と重松製作所の櫻井喜宣品質保証部長、濱田昌彦社長付主任研究員に、お話を伺いました。

Q1: 呼吸用保護具には、様々な種類があるようですが、どのように使い分けているのでしょうか。

A1: 呼吸用保護具は、「給気式呼吸用保護具」と「ろ過式呼吸用保護具」に大きく分かります。これらは作業環境の酸素濃度や有害物質の種類、許容濃度などによって、使い分けます。

例えば、酸素濃度が低い、あるいは有害物質が不明であるなどの場合は、「給気式呼吸用保護具」を使用し、十分な酸素濃度があつて、有害物質が明確であるなどの場合は、「ろ過式呼吸用保護具」を使用します。ろ過式では、有害物質が粒子状物質のときは面体にフィルタを取り付けた防じんマスク、有害物質がガスや蒸気のときは面体に吸収缶を取り付けた防毒マスクを選択します。また、より防護性能の高いものが必要な場合は、電動ファン付き呼吸用保護具を使用します。

Q2: 東日本大震災のとき、震災対応のため、マスクの製造をされたと伺いました。そのときの状況について、教えてください。

A2: 私達は、発災前から、放射性物質を吸収缶で除去する全面マスクを製造していました。そして、発災直後、東京電力から、福島第一原子力発電所の事故対応のため、大量の全面マスクが欲しいと連絡がありました。

一方、私達の事業所も被害を受けました。そこで、横浜から建設会社の方に来てもらい、倉庫を修復するなどして、発災から3日後には、なんとかマスクを作り始めることができました。

発災から約1年間、発災前の7~8倍の全面マスクを製造しました。社員だけでは製造が追い付かず、臨時でスタッフを雇い、24時間交代制で製造しました。

船引事業所は、福島第一原発から約40キロメートルの距離にあります。避難区域の外ですが、当時の所長は、「ここに人を集めて、マスクを作り続けていいのだろうか」と、ずっと悩んでいました。しかし、「福島のために作ろう。福島の安全は福島で守る。」との想いで、マスクの製造を皆で続けました。そのような皆の想いがあつたから、製造を続けることができたのだと思います。



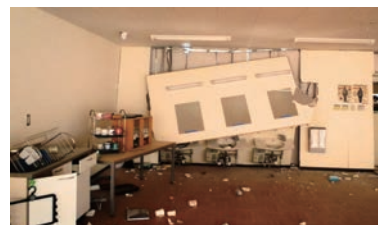
増岡事業所長(中央)、櫻井部長(左)、濱田主任研究員(右)と東京電力からの感謝状(中央上)



ろ過式呼吸用保護具。面体(顔に接着する部分)にフィルタ(左)か吸収缶(右)を取り付け、使用。



顔面全体を保護する全面マスク。



震度6弱の地震により、壁が崩れ、物が散乱した部屋。

(下3枚の写真は、重松製作所提供)

東北防衛局職員採用案内 2025年4月新規採用

東北防衛局では、2024年度国家公務員採用一般職試験の最終合格者から職員（事務官・技官）の採用を行います。職員は、様々な業務を行い、自衛隊・在日米軍・地域住民の方々との架け橋となっています。幅広い視野と積極性を持ち、粘り強く課題に取り組める人材を求めています。

業務説明会や官庁訪問を実施し、具体的な業務内容のほか、やりがいや醍醐味なども職員から直接お伝えします。興味・関心のある方は、是非ご参加ください。

事務官（行政・事務職） 【試験区分：事務東北】

【主な業務内容】

防衛政策への理解と協力を得るための施策（広報、防衛セミナー、日米交流事業等）や防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策（民生安定施設の整備、障害防止工事、住宅防音事業等）等



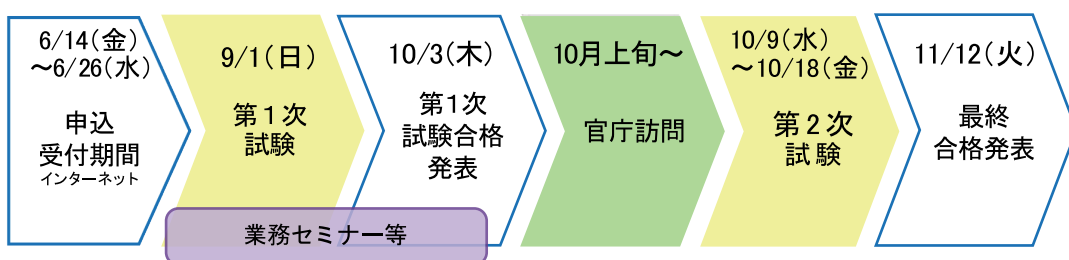
技官（技術職） 【試験区分：技術東北】

【主な業務内容】

自衛隊や在日米軍の活動基盤となる防衛施設（飛行場、港湾施設、レーダー施設、体育館、隊舎など）の建築・土木・機械・電気通信設備工事の設計・監督等



採用までの流れ 2024年度国家公務員一般職試験（高卒程度試験）



東北防衛局
採用情報は
こちらから



編集後記

4月21日、創立記念行事が開催された神町駐屯地の周辺の果樹園では、サクランボの花が満開でした。初めてサクランボの花を見ましたが、「花が白いけど……桜？」と思うほど、桜によく似ています。

それもそのはず、日本で栽培されるサクランボの多くは、セイヨウミザクラ（西洋実桜）という海外原産の桜の木になる果物を指すとのこと。ちなみに、山形県でサクランボの栽培が始まったのは、明治8年（1875年）。来年150周年を迎えるにあたり、山形県では、イベントやキャンペーンが企画されているようです。

